

## 留学報告書

記入日:2018年4月15日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部/国際日本学科
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 西シドニー大学 現地言語: Western Sydney University
留学期間	2018年2月～2018年7月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	1年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	☒特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2018年7月6日
明治大学卒業予定年	2020年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:           2学期:           3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約4万5千人
創立年	1989年

留学費用項目	現地通貨 ( AUSD )	円	備考
授業料		円	授業料免除型のため
宿舍費		約50万 円	約10万×5ヵ月
食費		約50万 円	
図書費		円	
学用品費		円	
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		円	形態:
渡航旅費		約20 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計		約120万 円	



## 渡航関連

**渡航経路:** 飛行機

渡航費用

チケットの種類 JAL

往路

復路

合計 約 15 万(早めから往復のチケットを購入しました)

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

旅行会社は使用しませんでした。ガイドブックも特に読んでいませんが、この留学報告書はよく読んでいました。

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 )

3)住居を探した方法:

大学の留学生用ホームページから探しました。「Where to Live」の項目から、「On Campus Accommodation」の大学と提携している寮を選択すると、いろんな形態の部屋の種類を見ることが出来ます。

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

学生寮は向き不向きがあると思います。基本的なものはほとんど揃っていますが、そんなに綺麗ではないです。しかし基本的な設備は整っており、大学やショッピングセンターまでの近さを考慮すると住みやすい環境ではあったのかなとは思っています。また、寮内のイベントが本当にたくさん開催されているので、物怖じせずに参加できるイベント好きの人には向いていると感じました。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

相談する機会はありませんでしたが、相談窓口みたいなものは寮にも大学にもあります。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

在留届を外務省に提出していたので、メールでシドニー及びオーストラリアの危険情報等が届くようになっていました。基本的にはオーストラリアは治安のよい国だと感じましたが、一部危ないといわれる地域(ブラックタウンなど)があったので、そこには一人で行かないほうがいいと思います。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

学内スペースでの Wi-Fi 環境は特に問題ないです。カフェとかフードコートみたいなところでも、日本よりフリーWi-Fi が多い印象です。携帯は、Optus を使いました。ネットで調べると、ワーホリ経験のある方が詳しくまとめているサイトがあるので、それを参考にしました。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

オーストラリア政府からの奨学金を受け取るため、日本でオーストラリアの銀行口座を開設しました。銀行口座を開設し、日本にいる親から送金してもらいました。Commonwealth Bank が一番良いと思います。日本から Commonwealth Bank の銀行口座を開設する方法と現地に行ってからの手続きについては、ネットで詳しい記事が載っていたのでそれを参考にしました。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

パラマタキャンパスの近くにあるショッピングセンターには、ダイソーやアジアの食料品を売るお店が充実しており、基本的に現地でなんでも手に入ります。ただ、物価は少々高いです。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った等)

## 卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
現在就職活動中です。
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
IT、通信業界を志望しています。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
1 学期間の留学だったため、就職活動に関しては、秋から通常の流れで行いました。就職活動においては、留学をしていた時のエピソードを「何を目的に」「何を意識して」「どのように活動したのか」を明確にして話すことが出来ると、ESや面接の通過率が上がる印象があがる印象があります。留学前から、留学中に何をするのかを決めておくことも重要だと感じました。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
30 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Asia in the World	世界の中のアジア
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月～6月)
単位数	10
本学での単位認定状況	申請結果待ち
授業形態	レクチャール(レクチャー+チュートリアル)
授業時間数	1週間に 60 分が 1 回
担当教授	Peter Mauch, Karen Entwistle
授業内容	人類の誕生から今に至る長い歴史の中で、アジアの変遷を地球規模の背景で考察する内容でした。まずアジアの定義から始まり、アジアの国同士関わり合い、そしてどのように西洋の価値観が アジアの人々に影響を与えてきたかについて、具体的な例をもとに分析していきました。毎週、個々の時代や国々に限定した内容の講義で、政治や経済、宗教、文化、社会などの様々な観点から細かい理解が求められました。
試験・課題など	試験は小テストが6回、そして期末のエッセイがありました。小テストは各週の指定された教科書の内容に基づいた基本的な問題のクイズです。期末のエッセイでは、いくつかの歴史的文書が数十個ほど用意されており、その中から2つ選び、その2つが互いどう関わり合っているかの考察を書くものでした。

感想を自由記入	毎週課されるリーディング課題が非常に多いです。また、最終のエッセイの求められる分量もそれなりに重いものでした。内容そのものは義務教育で習ったものが出てくるなど、比較的易しめですが、歴史に興味がないときついと思います。Peter Mauch という教授が日本に関わりのある先生らしく、また生徒から人気のある方だと伺ったためこの授業を取って見たのですが、授業には一回も現れずショックでした。また、授業の内容に関しても、ディスカッションなどの留学らしいものではなく、講義が主だったため、イメージとだいぶ違いました。しかしながら、改めて歴史を学ぶのは新鮮でした。主に授業を担当していた Karen Entwistle 教授はとても優しく、質問するといろいろ答えて下さるいい先生です。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	Understanding Society	履修した授業科目名(日本語): 社会の理解
科目設置学部・研究科	School of Social Sciences and Psychology	
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月～6月)	
単位数	10	
本学での単位認定状況	申請結果待ち	
授業形態	オンラインレクチャー(課題)+チュートリアル	
授業時間数	2週間に 120分が 1回	
担当教授	Jack Isherwood	
授業内容	オンライン上で受ける講義と、教室に行きディスカッションを行うチュートリアルがそれぞれ2週間に一回あり、毎週どちらか片方が行われるものでした。様々な社会学者が唱えた説をもとに、それが現実の社会ではどうなっているかを考える講義内容で、時に哲学的な内容もあり、英語で理解するには少し大変でした。その中で社会問題(民族、性、所得差による差別や不平等)にフォーカスし、主にオーストラリアを舞台に、現在の状況が過去と比べてどのように変わったのか、そしてそこにはどのような社会的要因があるのかを考察しました。	
試験・課題など	小テストがオンライン講義ごと、中期エッセイが1回(500Words)、期末エッセイが1回(1500Words)、期末テストが1回でした。小テストは各週指定された内容に基づいた基本的な問題のクイズです。最後の期末テストは、講義内容の中から出る12個のエッセイクエスチョンが事前に提示され、そこに対する自分の考えを教室に行き2時間で書くというもので、実質エッセイでした。	
感想を自由記入	オーストラリアには多様な文化的背景を持つ人が共存しているため、このような差別や不平等が顕著に存在し、また国民もそこに敏感なため、議論がたまにヒートアップしていて面白かったです。授業で扱う内容もオーストラリアならではのものが多かったので、取ってよかったなと思います。教授は2人おり、比較的若くて冗談もよく言う人だったので、生徒に人気でした。授業内容もディスカッションがほとんどで、たまにオンラインゲームを取り入れてみるなど、生徒が飽きないように工夫がされている印象でした。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):	English as an International Language	履修した授業科目名(日本語): 国際語としての英語
科目設置学部・研究科	School of Humanities and Communication Arts	
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月～6月)	
単位数	10	
本学での単位認定状況	申請結果待ち	
授業形態	レクチャー(レクチャー+チュートリアル)	
授業時間数	1週間に 120分が 1回	
担当教授	Adrian Hale	
授業内容	英語という言葉の成り立ちや、他言語への影響を知り、現在の英語の立ち位置を深く知るといった内容でした。主に言語学分野で、発音や単語の種類や成り立ち、他言語への影響や、反対に英語が他言語から受けた影響がどういふところに現れているかを学びました。言語学をゼミで学ぶ自分にとってはとても興味深い内容でした。	
試験・課題など	小テスト3回、Problem Set(小テストのようなもの)2回、期末エッセイ1回(1500words)でした。小テストは各週指定された内容に基づいた基本的な問題のクイズです。期末テストは、言語学的な観点から見た英語に関する問題点のお題を自分で決めて自由に書くものでした。私は「Native English Teachers and Non-native English Teachers」というタイトルで書きました。	

感想を自由記入	第二言語習得学という分野をゼミで学んでいたため、その内容に近く、得るものが多い講義でした。ただ、講義中にディスカッションをする機会が一切なく、基本的に教授の講義のみだったのが自分の予想とは違いました。また、教科書がなく、試験のひとつである Problem Set の為の勉強の方法がひたすら講義内容を頭に入れることしかなく、大変だったと記憶しています。教授の発音は北欧訛りで理解するのに時間が掛かります。
---------	--

## 留学に関するタイムチャート

2017年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	
2018年 1月～3月	2月: 出発
4月～7月	6月: 期末試験 7月: 帰国
8月～9月	
10月～12月	
2019年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	ゼミでの学びを深めたいと考えたからです。私は第二言語習得学という分野を学ぶゼミに所属しており、主に英語を第二言語として学ぶ際にどのような過程を経るのか、そしてその成功や失敗にどのような影響があるのかを研究しています。その中で日本だけではなく、外国で英語はどのように学ばれているのか、また他言語との住み分けはどのように行われているのかに興味を持ち、1 学期間実際に外国に出てそれを体感したいと考え、留学を決めました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	日本に関する抽象的な知識と語学力です。日本人は神道を信じているのか、ヤクザはいるのかという事を友達や授業中のディスカッションで聞かれ、返答に困ってしまいました。簡単にでも説明できるようにしておくのがいいと思います。語学力に関しては、スピーキング力よりもリスニング力をあげておけばよかったなと思いました。授業に関しても、普通の会話においても、相手が何を言っているのかが分からないと、話について行けず、またその話を広げることも出来ないからです。スピーキング力はもちろんあるに越したことはないですが、言語以外のコミュニケーションの取り方や、表情や立ち振る舞いなど、意思があれば基本的に聞いてもらえます。
この留学先を選んだ理由	多文化国家ならどこに行っても自分の目的が果たせると考えたため、春募集の中でオーストラリアの協定校が最もいいと考えていました。その中で、当時持っていた英語のスコアで行ける最高レベルの大学が西シドニー大学だったので選びました。結果的に、シドニーは言語に関する多様性があり、住んでいて面白い都市だったので、ここにして良かったなと思っています。
大学・学生の雰囲気	学生が学ぶための学習環境が整っている大学であると感じました。私が通っていたパラマタキャンパスは設備が比較的綺麗で、過ごしやすかったと思います。また、学生も国籍も年齢も多様な人が学んでおり、自分が留学生だからといって浮くこともなく、ありがたい環境でした。他の大学に留学した経験がないので比較できないのですが、留学生に対するサポートも手厚いと感じました。(図書室でのエッセイ添削、寮のイベント、大学主催の留学生限定オリエンテーション等)
寮の雰囲気	私が住んでいたパラマタの寮では、入寮当初のみならず、定期的に学生同士が交流するイベントが開かれていました。お酒を飲み騒ぐタイプのイベントもあり、入りこい雰囲気もありますが、積極的に交流していけば受け入れてくれると思います。私は寮で住んでいる以外に友人が多くおり、また留学期間が1 学期間と短かったため、あまり寮の中での交流はなかったため、それが留学中の心残りでもあります。
交友関係	私が留学に行く一年前に同大学に留学していた先輩とコンタクトを取り、そこで紹介してもらった友人から輪を広げていきました。どちらかというと内向的な性格なので、たくさんの人と交流するような留学生活ではなかったのですが、親しくしてくれた方達に観光地だけではなく自宅に招待してもらったり、ドライブに連れていってもらったりなど、本当に様々な経験をさせてもらって感謝の気持ちでいっぱいです。留学している学生だけではなく、現地の友人を多く持つことで、現地の人しか行かないようなお店や場所に連れて行ってもらって、貴重な経験が出来るのでお勧めです。
困ったこと、大変だったこと	ルームメイトと一度ぶつかり大変な思いをしました。オーストラリア人 2 人と住んでいて、生活習慣が違うためお互いの交流があまりなかったのですが、そのせいもあり、一度冷蔵庫に置いているルームメイトの冷凍食品をずっと食べ続けていると疑われ、英語でまくしたてられた経験があります。必死で自分ではないと伝えたのですが、ピザを部屋に投げつけられ「そんなにご飯が欲しいならあげる」と言われた時は、自分が犯人であると決めつけられた対応に悲しくなり思わず泣いてしまいました。とても悔しかったので、改めてルームメイトを全員呼び出し、話し合いを設けました。自分ではないという事と、私自身も食器や食料がなくなった経験があることを伝えることで、ルームメイトには信じてもらえました。やはり生活を共にするからこそ信頼関係を普段から作っておくことは重要で、部屋に一緒にいる時間が少なくてももっと積極的に交流をとっておけばよかったなと思います。

学習内容・勉強について	自分の周りに自分よりも先に留学していた人がいたため、その人達からの話を聞き、留学先の授業は大変だという予想はしていたのですが、予想以上でした。課題の多さが一番の要因です。毎週やらなければならない課題があるので、もし課外活動をやる予定の人は、授業を決める前に、それぞれの授業には毎週どれほどの量と種類の課題が課せられるのかを確認したほうが良いと思います。私が選んだ授業は、リーディングの量が多く、興味のない分野の時は集中して読むのに苦労しました。読んでも頭に入らないことが多いので、私は読みながら重要だと感じたことを word でまとめて理解するようにしていました。議論についていくためにも、チュートリアルが行われる前に、自分なりに授業内容を頭に入れるための勉強が必須です。
課題・試験について	私の場合、試験のほとんどはエッセイであり、学部で 1.2 年生の時に英語でたくさんエッセイを書く機会があったためにあまり苦には感じませんでした。しかし分量がとても多いので、いかに前々から準備するかが重要だと思います。課題で出した英文を読み込み、剽窃をチェックするシステムが厳重なので、web サイトや論文でいいなと思った英語表現があっても使えません。高度な英語表現よりも、論文全体の構成がしっかりしているか、内容がお題に沿っているかなどが見られていると思うので、そこを重視しながら書いていけばいいと思います。
大学外の活動について	1 学期間の留学で、比較的短かったので、特に学外の活動は行いませんでした。西シドニー大学のサイトには、留学生でも参加できるインターンシップの情報がたくさん載っていたので、興味があるひとは見てみたり、留学生を担当している大学の事務室に相談してみたりするといいいと思います！
留学を志す人へ	「いろんな人と話さなくちゃ」とか「授業で積極的にディスカッションに参加しないと」等いろいろと考えるとと思いますが、大切なのは「自分が留学を経てどうなりたいか」だと思います。積極的に英語を使って自分に自信をつけたいとか、英語を上達させたいとか、英語に関する目標があるならその通りの行動をするといいいと思います。私は積極的に集団に入っていけるタイプではなく、留学中に苦労することも多かったのですが、それでも自分なりに人とコミュニケーションを取り、今でも連絡を取り合える友人が出来ました。まさに留学、というように多くの人と交流の機会を持っていた訳ではなかったため、留学に来たのにこれでいいのかなど悩むこともありましたが、私は自分の「ゼミでの学びを深める」という目標を達成できたと考えています。人それぞれの留学生活があると思うので、自分らしくのびのびと貴重な時間を過ごしてください！ 応援しています。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	自習					一日中遊び	
	自習		自習				
午後	授業	遊び	自習	自習	買い物		
			授業	自習			
夕刻				授業			自習
夜		友人と食事			友人と食事		自習